

## 首都圏の一層のレジリエンス力向上に向けて

竹内 英（文部科学省研究開発局地震・防災研究課長）



文部科学省研究開発局地震・防災研究課長の竹内英氏は冒頭のあいさつで、「平成 30 年 7 月豪雨、台風 21 号、北海道胆振東部地震など、ここ最近頻発しているさまざまな自然災害において亡くなられた方々に、心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまにお見舞い申し上げます」と追悼の言葉を述べました。

竹内氏は「災害による人的被害の減少に加え、災害復旧に要する期間を短縮し経済的被害を可能な限り減少させることが重要」と語り、特に、30 年以内に 70% の確率で起こるとされている首都直下地震については「首都圏のレジリエンス総合力を大きく向上させる必要があり、首都圏レジリエンスプロジェクトの成果を社会実装に結び付け、減災につなげていくことが大切」と同プロジェクトへの期待を述べました。

竹内氏はまた、本年 10 月から内閣府事業として始まった官民研究開発投資拡大プログラム：PRISM についても触れ、防災力を高めるためにどのようなデータ収集が必要か具体的な検討を進めてほしいと要望しました。